

価値創造

価値創造プロセス

およそ100年前、一本のブレードづくりから始まった有沢製作所は、ガラス繊維 (glass fiber) やいろいろな新素材を用いた製品開発と、時代の求めに応じて技術を革新し続けることで、さまざまなものづくりを支えてきました。有沢製作所は、ものづくりの始まりに携わる企業としての責任と誇りを胸に、次の100年へ向けて、よりしなやかに、積極果敢に前進することで、世界中のものづくりを、より良い方向に変えていきます。

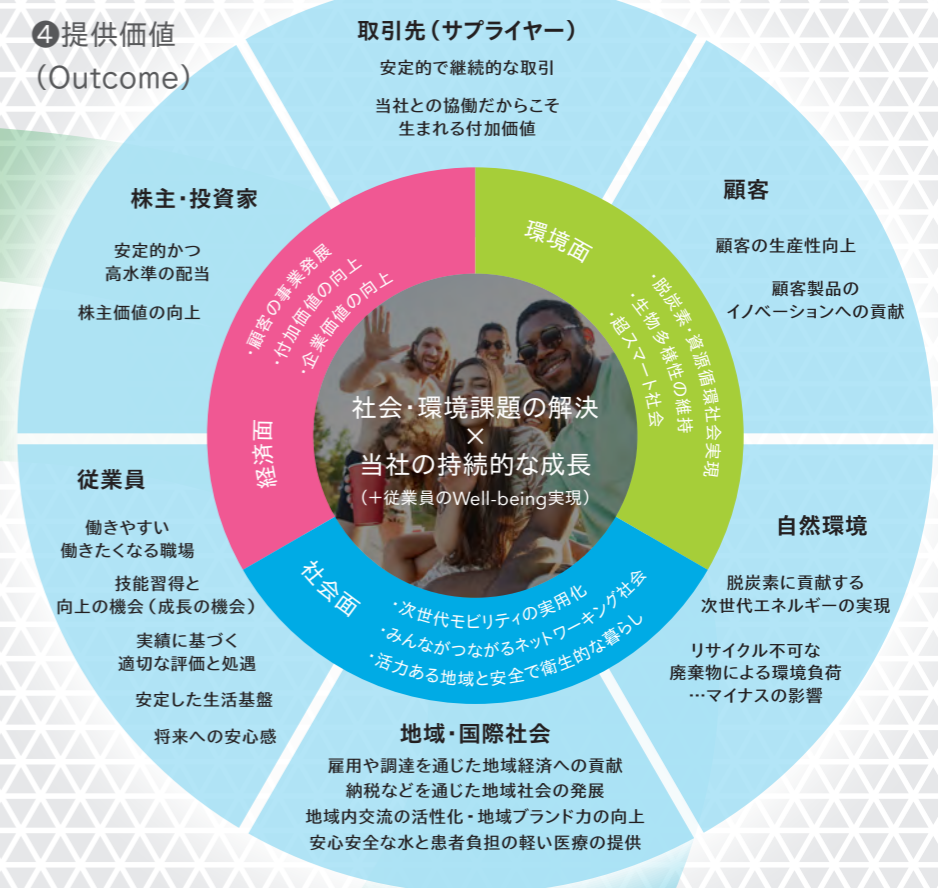
現在、当社グループの主要製品セグメントには電子材料、産業用構造材料、電気絶縁材料、ディスプレイ材料があり、それらを支える価値創造活動により、人々の豊かな生活に寄与する製品とサービスを提供しています。事業を通じて「脱炭素社会への貢献」「多様な人材の育成と働きがいの向上」「循環型経済の推進」「ガバナンスの充実」の4つの課題に取り組み、持続的に成長できる強い企業となることで、社会価値と経済価値を創出します。

外部環境 (社会課題)

- ・気候変動 ・資源枯渇 ・生態系の崩壊 ・規制の強化
- ・価値観や生活様式の多様化 ・高齢化社会 ・サプライチェーンの分断
- ・人権課題の顕在化 ・労働環境の流動化 ・イノベーションの進展
- ・地政学 / サイバーリスクの顕在化

⑤ マテリアリティ ESG方針
P.19~20

- 循環型経済の推進
- 脱炭素社会への貢献
- ガバナンスの充実
- 多様な人材の育成と働き甲斐の向上



C I C

「創造 Create」「革新 Innovate」「挑戦 Challenge」

昨日より今日、今日より明日

① 経営資本 (Input)
P.15~16

- 製造資本**: 多品種少量から大量生産にまで対応できる製造・加工設備、グローバルな生産体制
- 財務資本**: 堅牢なバランスシート、安定的なキャッシュフロー創出力
- 知的資本**: 「織る」「塗る」「形づくる」を基盤とする素材加工技術、自社による制御システムおよび制御ノウハウ、部門・製品横断的に継承される暗黙知
- 人的資本**: 連結総従業員数 1,458名、挑戦意欲にあふれた粘り強い企業風土
- 自然資本**: エネルギー (原油換算) [2022年度 15,432KL]、化学素材・有機溶剤などの原材料 (購入分) [2022年度 9,009t]
- 社会・関係資本**: 実績に基づく顧客との信頼関係、約1,000社にのぼる広範なサプライヤーとのネットワーク

② 競争優位性 (強み) とビジネスモデルの進化

「加工」を究めた「織る」「塗る」「形づくる」の一貫工程

- 関連メーカーグループに属さない独立性
- 「織る」「塗る」「形づくる」の一貫した加工工程で複合的な開発・製造を実現

スピーディーな対応を実現する集約型の体制

- 開発・製造機能が集約され、連携が早い
- 「織る」「塗る」「形づくる」の一貫工程で、各工程へのフィードバックが早い
- 経営トップによる素早い意思決定

環境変化への柔軟な対応力

競争優位性を活かした既存事業 + CIC精神に基づくイノベティブな新規事業

中期的なモデルの進化

- 能動的なニーズ発掘を通じた提案型ビジネスへの進化
- 脱炭素社会をけん引する業界トップランナーへの進化
- 「織る」「塗る」「形づくる」+「貼る」への進化
- 上越から世界へ、グローバルメーカーへの進化

③ 未来に寄与する製品群 (Output)

<p>情報デバイス</p> <p>スマートフォン・タブレット 高速通信</p> <p>IoT社会への貢献</p>	<p>次世代モビリティ</p> <p>EV・FCV・自動運転支援 航空機軽量化</p> <p>次世代輸送機器への貢献</p>	<p>ライフサイエンス</p> <p>医療分野ディスプレイ 水処理・災害対策用構造材料 脱炭素新エネルギー</p> <p>新たな環境変化への挑戦</p>
---	---	---

3 3R推進 環境にやさしい製品づくり
6 社会課題の解決に向けた取り組み
7 SDG17: 持続可能なパートナーシップの推進
9 高品質な製品・サービスの提供
11 持続可能な都市・地域づくり
12 資源の循環と廃棄物の削減
13 気候変動への対応
15 生物多様性の保全

価値創造

価値創造を支える経営資本

当社は、成長の積み重ねを通じて築き上げてきた各資本を基盤に、競争優位性をさらに高めていきます。事業戦略のマネジメントとESG課題に対する積極的な取り組みを通じ、価値創造プロセスを進化させつつ、当社の企業価値を高めていきます。

財務資本

当社は、運転資金の他、成長のための設備投資、M&A、DX投資などを必要に応じて実行するため、安定的かつ機動的に運用し得る財務資本を有しています。主な資本の財源は、営業活動によるキャッシュフローに加え、金融機関からの借入の実施など機動的に進めています。

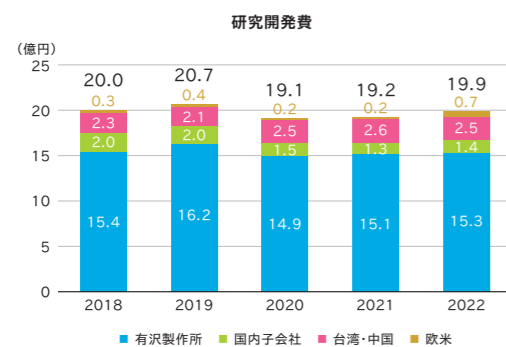
また、中期経営計画ではROIC 6%を目標として掲げ、収益力の強化と資本効率性の向上に取り組んでいます。具体的には、事業により良好なキャッシュフローを維持し、財務健全性を確保した上で新たな成長に向けた新規事業投資・研究開発投資などへ積極的に資金を配分しています。さらに、その成果をステークホルダーの皆様に適切に還元していきます。

知的資本

創業以来、顧客の皆様の要望に応えるべく試行錯誤しながら、「織る」「塗る」「形づくる」さらに「貼る」という当社の中核を成す技術を磨いてきました。そして、それらの技術を高度に結合させ、機能を最適化する開発に携わった経験者が多数在籍しています。

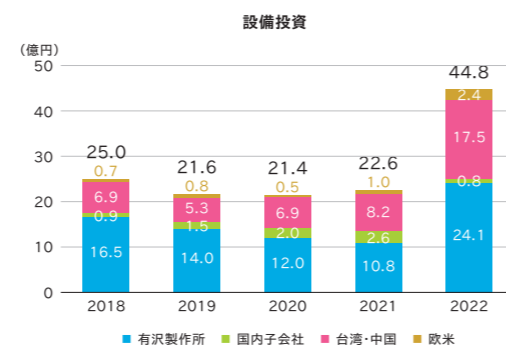
先輩から後輩へと引き継がれた経験を基盤とし、新たな発想を取り入れた研究開発活動により生み出された独自の技術は、顧客の皆様のビジネス発展に寄与する重要な財産と位置付けています。そして、顧客の皆様が求める製品と自社の製造プロセスの特徴を把握し、長年にわたり蓄積してきた中核技術を結集して最適設計を進めています。

研究に携わる社員には、勤務時間の15%を自分の好きな研究に充てて良いとする「15%カルチャー」を確立し、新製品開発に貢献した社員へのインセンティブの一つとなる「新製品開発賞」制度を設けています。今後も新製品・新事業が生まれる環境の整備に努めていきます。



製造資本

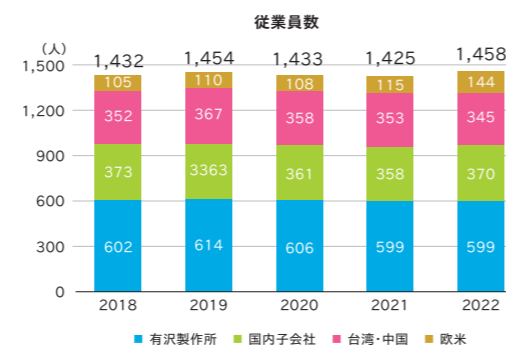
顧客の皆様のさまざまな要望に応えるため、少量多品種生産に対応できる設備を活用し、きめ細かな対応をしています。また、顧客の皆様の事業規模の拡大に呼応できる中量から大量生産に対応した設備の保有と、前工程・後工程・検査工程の一貫した製造体制により、高度な品質管理と安定した供給を可能にしています。加えて、生産設備の制御システムを自社で開発することで、生産効率の改善とコストダウンを実現します。



人的資本

経営陣、社員が持つ伝統的な真面目さ、誠実さ、愚直さ、忍耐強さに加え、高い挑戦意欲が当社の100年を超える歴史を支えてきたと言えます。創業以来蓄積してきた知識と技術を一つ一つ試行錯誤しながら結合し、信頼性の高い製品を顧客の皆様に提供してきました。

当社には、多様な製品に対応できる多能工、応用力のある熟練オペレーターや開発部門のスペシャリストが揃っており、長く勤続しています。「暗黙知」を「形式知」化していくことで、さらに強固な人的ネットワークを築き上げていきます。



社会資本

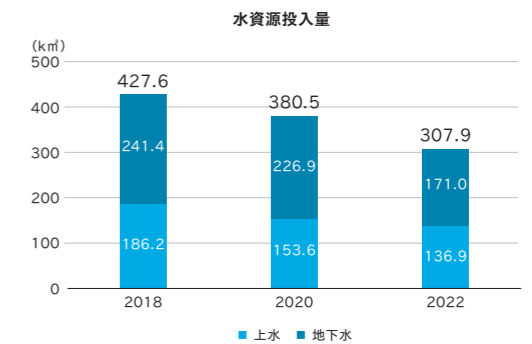
サプライヤーとの信頼関係に基づいて、各種業界の市況を把握し、リスク部材に対する先行手配などの対策を講じています。また、調達先の多様化を進め、安定したサプライチェーン構築に努めています。

部材品質と安定供給を確保しつつ、人権、労働、環境などに配慮したCSR調達を推進することにより、高品質で安定したものづくりが可能となります。信頼に基づくサプライヤーとの継続的な協力関係を大切にし、双方が持続的に成長できる調達活動を目指しています。

織物の技術しか持たなかった当社がFRP分野に進出する際、重電メーカーの皆様が技術指導を受けて誠実に試作に取り組み、要望に応じてきたように、取引先の皆様との実績に基づいた強い信頼関係があります。かつて、ある商社の方に「有沢さん、お宅は試作品のデパートですね」と言われたことがありました。検討・試作段階で「真っ先に声を掛けていただける」関係性を財産として大切にしていきます。

自然資本

製造工程において、再生可能エネルギーの導入やエネルギー使用効率の改善を進めるとともに、CO₂排出量・水資源使用量・廃棄物排出量などを削減していきます。



ブランドの刷新

2023年4月1日、有沢製作所はロゴマークを刷新するとともに、以下のブランドメッセージを公表しました。「未来のピース」を生み育て、当社特有の価値を創造していきます。

LOGO

Before (~2023.03)



NBは、旧社名の日本ブレードからのデザインロゴです。約100年という長い歴史を共に歩んできました。

After (2023.04~)



三角形はARISAWAの「A」を表現しています。その3辺は、有沢のコア技術である「織る」「塗る」「形づくる」を表し、3色は上越の「桜」「空と海」「山々や田畑」をイメージしています。3つの技術力を基盤に、上越の地だからこそ新たなものが生まれる、という想いを込めました。

CORPORATE MESSAGE

時代を変える大発明も、暮らしを支える製品も、素材や部品ひとつで、価値が大きく変わることがある。「つくる」の始まりにたずさわる責任は大きく、重い。ARISAWAはそのことを、誰よりもよく知っています。

私たちがつくるのは素材や部品など、目に触れることの少ない、さまざまなピース。でもそれらは、暮らしの中に確かに存在している。私たちの製品は、多彩な先端技術の土台となり、開発の足がかりとなり、絶え間ない技術の進歩を支えている。ARISAWAは、いわば未来を拓く、ものづくりの第一走者。

未来のピースがここで生まれ、形を成していく。

織る、塗る、形づくる。私たちは技術革新をさらに進め、人と地球に優しい社会の実現について、広く思いを巡らせる企業であろうと努めています。「つくる」の第一歩が進化すれば、ものづくりの世界を大きく変えることができる。

新潟県上越市高田。厳しくも美しい自然に恵まれたこの地で、ARISAWAは個性的なピースをつくり続けます。わくわくする未来に思いをはせて。

未来のピース ここに芽吹く

価値創造

価値創造の源泉（ビジネスモデル）

社会課題と向き合いながら独自性のあるビジネスモデルを創造し、ステークホルダーの皆様にさまざまな価値を提供することで、持続可能な社会づくりと成長を目指します。

ビジネスモデルの進化に向けた取り組み

持続的な企業価値向上

さらなる企業価値の向上を目指し、事業ポートフォリオマネジメントを効果的に運用するため、ROICを指標として資本コストを意識した経営強化を図ります。また、経営の方向性が正しく理解され、ステークホルダーの皆様からの共感を得ることが重要であると考え、積極的な対話を重ねていきます。

価値創造に向けた競争力の強化

カーボンニュートラルの積極的な推進や、新たな成長市場をターゲットとする開発活動を推進することで、新たな価値創造を図り、競争力を強化していきます。

共創による新価値創造と新領域への挑戦

今後は、オープンイノベーションを通じて想いに共感し合うパートナーを増やし、共創による新価値創造に取り組んでいきます。また、新領域にビジネスを拡大することで提供価値を高め、さらなる企業価値の拡大を目指します。

人材戦略の推進

顧客の皆様や社会の期待を超える商品やサービスを提供し続けていくために、意欲ある従業員の成長を促し、支え、後押しする人材戦略を展開していきます。新たなARISAWAブランドの下で「生き生きと働く」ことができる環境を整えていくため、総合的な組織戦略も推進していきます。

品質の向上

APS（当社の生産管理システム）で培ったノウハウを活かし、今後は新領域も含めたサービスや品質の向上に努めていきます。

環境との共存共栄の推進

社会との長期的な共存共栄の実現に向けて、環境負荷に配慮した製品・技術開発を推進し、新たな価値創出に積極的に挑戦していきます。

ビジネスモデルの進化の方向

競争優位性のある既存事業領域での経験を活かして能動的なニーズ発掘を進め、提案型ビジネスの領域を拡げていきます。CIC精神に基づくイノベティブな提案と高品質なものづくりでニーズを開発し、新規事業の創出につなげます。

競争優位性を
活かした
既存事業



CIC精神に基づく
イノベティブな
新規事業

中長期的な
モデルの進化

- 能動的なニーズ発掘を通じた提案型ビジネスへの進化
- 脱炭素社会をけん引する業界トップランナーへの進化
- 「織る」「塗る」「形づくる」+「貼る」への進化
- 上越から世界へ、グローバルメーカーへの進化

価値創造への新たな取り組み

ARISAWA INNOVATES!

さあ、次の100年へ

次の100年を見据えたイノベーションセンター 2024年12月竣工予定

私たちのイノベーションセンターは、他企業や研究機関との技術を融合・共創することで、これまでにない新たな価値を生み出す「オープンイノベーションの拠点」となることを目指します。そのため、社内全体のコミュニケーションをもっと活発にする仕組みを設計に取り入れられました。

例えば、技術部の執務フロアを、私たちが利用する食堂への動線上に配置。アイデアをすぐに共有できるように、実験室の隣にワークショップ・スペースを設けるなど。イメージしたのは「かまくら」のような、つながりのある大きな空間。部署や分野を隔てる垣根を取り払い、ひとつの空間を緩やかに共有することで、人と人、アイデアとアイデアが行き交う場をつくり出します。



イノベーションセンター（地上3階建て）外観イメージパース